

呼吸器内科のご案内

平成26年12月から、市立病院の呼吸器内科の体制が、大きく変わりました。ながらく非常勤医師のみで運営してきましたが、呼吸器内科専門の常勤医師が、2名赴任しました。そのため、従来からの肺炎や、気管支ぜん息の患者さんの入院治療が容易になるとともに、これまで他院に紹介せざるを得なかった、肺癌患者さんの治療が可能になりました。

本市周辺の中和地域では、胸部に異常陰影を認める患者さんが非常に多く、特に、肺癌患者さんが多いことが特徴です。これは、本市周辺地域の喫煙率が、男女ともに高いことに原因があると考えられます。このことは、統計のデータからも裏付けられており、住民の皆さんに、禁煙の重要性をより理解してもらいたいと考えています。

日本でのがん死亡者数は、男女合計で肺癌が最も多いのですが、高齢化に伴い、さらに増加するものと考えられます。肺癌に対する、診断や治療の整備の重要性が、わかってもらえるかと思えます。

現在、当院では、肺癌に対して、抗がん剤治療を中心に、治療を行っています。平成28年1月下旬からは、最新鋭の治療機器（True-Beam）を用いた放射線治療が可能になります。

この治療機器は、呼吸に合わせた同期照射が可能であり、肺癌治療に非常に有用です。これまで、奈良医大などにお願ひしていた放射線同時併用の抗がん剤治療が、当院でも可能となり、ますます患者さんのニーズに対応できる体制が整ってきたと言えます。

また、診断においては、すでに気管支鏡エコーを導入し、診断精度のさらなる向上をめざしています。

今後は、より高度な肺癌治療に必要な、気道治療も行える体制を整えていきたいと考えています。

呼吸器内科の常勤医師が2名しかいませんので、救急の対応などに不十分な可能性が考えられますが、肺癌治療を中心に頑張っていきます。

●2013年の死亡数が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	肺	胃	大腸	肝臓	膵臓
女性	大腸	肺	胃	膵臓	乳房
男女計	肺	胃	大腸	膵臓	肝臓

元データ：[人口動態統計によるがん死亡データ](#)

●2011年の罹患数(全国推計値)が多い部位

	1位	2位	3位	4位	5位
男性	胃	前立腺	肺	大腸	肝臓
女性	乳房	大腸	胃	肺	子宮
男女計	胃	大腸	肺	前立腺	乳房

元データ：[地域がん登録全国推計によるがん罹患データ](#)



〔呼吸器内科 主任部長 山口和之〕